

入 選

キレイな水を世界へ

水戸市立第四中学校

二年 関 根 沙 耶

私たちが毎日口にする水。日本は、水道の蛇口をひねれば、どこでもキレイな水が出る。その水で体を洗い、洗濯をし、料理をする。私たちは、水が身近にあることが当たり前で、「水の大切さ」を忘れてしまう。

遠いアフリカではどうだろうか。多くの途上国では、水汲みは子供たちの仕事だ。子供が水の重さに耐えながら、長い道のりを歩き、整備されていない川や池で手に入れた水。しかし、その水が子供たちの命と未来を奪ってしまうかもしれない。でも、生きるためだから飲用に適さなくても、水を飲み続けなければいけないのだ。世界では、汚れた水の中の病原菌や寄生虫などが原因で、毎日約八百人の子供

が亡くなっている。私は、世界の深刻な水問題を改めて認識すると共に、日常的に水を使えていることがどんなに幸せで、恵まれていることかを感じた。水問題について、もう一つ挙げることもある。水不足についてだ。世界的に水不足を引き起こしているのは、アメリカやEU、日本などの先進国の水の大量消費。この大量消費の大きな問題が仮想水の輸入だ。仮想水とは、食料を輸入している国が、その食料を生産するとしたら、どの程度の水が必要か推定したもの。日本は、食料自給率が四十パーセント程度で、海外の水に頼って生きている。つまり、食料の輸入は、形を変えて「水」を輸入していると考えられるのだ。海外から日本に輸入された仮想水の量は、日本国内で使用された年間水使用量とほとんど変わらない。私たちは普通の生活のために、想像以上に途上国の生活を破壊しているのだ。海外での水不足の問題は、日本が決して無関係ではないと思っただ。

これらの問題が少しでも改善するためにも、私は次の二つのことを実行していこうと思う。

一つは節水だ。日常の水の使い方を見直し、水の節約を徹底したい。具体的に、手を洗うときやシャワーを浴びるときに水を出し過ぎない、出しゃばなしにしないこと。お風呂は必要な量だけ水を貯める、お湯を洗濯に再利用するなど、無駄な水は使わないことを常に心がけていきたいと思う。これまで使っていた無駄な水が、一滴でもアフリカに届くことを願って節水していきたい。

もう一つは食物についてだ。まず、食物を買うときは国内産を買うようにしたい。肉類などは、海外産の方が安いものがほとんどだから毎回国内産を買うことはできない。しかし、海外ではお金に変えられない命が失っていることも考え、買い物をしたと思う。そして、料理を残さず食べることに。今、私たちが一番簡単にできることは、これだと思う。食材の一つひとつにどのくらいの水が使われたのか、よく理解をして残さずに食べたい。

水には、限りがある。その限りある水の全てがキレイで、安全であってほしい。水はとても便利なものだ。その一方で、時には尊い命を失うこともある。

私たちが防げることは防いでいきたい。今、私にできることを、ひとつひとつ。